



愛知陸協広報

第9号

20年3月30日発行

愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

e-mail ark@marble.ocn.ne.jp

ホームページ: url <http://goldjaic.org/jaic/member/aichi/>



この一年を振り返って

理事長 國分 一郎

- 1 平成19年度の登録者数は、中学生5,122名、高校生5,722名、一般2,604名で、合計13,448名でした。昨年より中学生が682名増、高校生が304名減、一般が203名増、合計では581名の増でした。中学生の増加が大きかったわけですが、今後もその傾向が続くよう努力したいと思います。
- 2 昨年8月世界陸上大阪大会の観戦に審判出席日数の多い審判員100名、競技成績のよい中・高校生50名を1泊2日の日程で派遣しました。日本陸連からいただいた地域活性化資金の4倍近いお金を使いましたが、審判員の方々の日頃のご労苦に少しは報いられたのではないのでしょうか。中・高校生も観戦レポートから次年度への取り組みの意欲がうかがえ、期待がふくらんでいます。
- 3 秋田国体へは、各部門のコーチやトレーナー等、県費から派遣費が支出されない人も多数派遣しました。また、県費支出の倍近い費用を支出しました。総得点71.5点、順位14位というのは、県民730万人の県の成績としては恥ずかしいと思います。得点を取るのが大変なことは付き添ったコーチが一番よく知っているのですから、コーチの方々は、選手を育てることに邁進してほしいと思います。
- 4 昨年8月には東海中学総体陸上競技大会が、瑞穂陸上競技場で開催されました。責任ある運営をするために、中学の先生以外の審判員の方々に参加していただきました。また、主任者会も開催しました。その費用は愛知陸協で負担しましたが、今後もそのような気配りはしていきたいと思っています。
- 5 第2回市町村対抗駅伝を、昨年12月1日に万博記念公園で開催しましたが、公園内は1年前よりだいぶ整備され、市町村の特産品の出店もあり、一段と盛り上がりました。第3回大会が楽しみです。
- 6 都道府県対抗女子駅伝は、1月13日に京都で開催されました。前半での出遅れがありましたが、昆明から帰国してアンカーをつとめてくれた大南博美選手などの健闘により、13位になりました。
- 7 都道府県対抗男子駅伝は、1月20日に広島で開催されました。長野県のアンカーが選手変更でしたので、優勝のチャンスがありましたが、後半よく追い込んだものもう一步届かず2位となりました。
- 8 年度末終盤にも犬山ハーフマラソン、国際室内棒高跳競技会、名古屋国際女子マラソン、中日豊橋マラソンと4つの大会がありました。他県では1つくらいだと思いますが、各支部の方々の格別なご協力、ご支援に厚くお礼申し上げます。
- 9 平成20年11月3日には、第26回全国レディース陸上を開催します。昨年10月22日に実行委員会を立ち上げ、すでに2回の会合を開催しました。今後いろいろな問題を解決していかなければなりませんので、各専門委員会のエネルギーな取り組みを期待します。
- 10 数年後には、全日本中学陸上競技選手権大会を開催する予定です。中学生陸上関連事業助成のため、次年度より登録料(中学)の値上げを理事会で決定しました。格別のご理解をお願いします。



名古屋国際女子マラソン

北京めざして力走する先頭集団 (写真提供 中日新聞社)

支部報告〈1年を振り返って〉

名古屋支部

平成19年度のシーズンは、支部にとって大きな前進の年であった。小中高生諸君の県・東海・全国大会での活躍には目を見張るものがあった。県・支部の陸上教室やJACクラブ等の指導者の労苦に感謝します。この流れが、大学・実業団にも波及することを期待します。

施設面でも、知多市陸上競技場では、今冬、トラック走路のラインの塗り替え、ゴール周辺のタータンの補修、バックスタンドの樹木剪定など、自治体の厳しい予算の中、毎年整備を重ね陸上競技発展に協力いただき深く感謝します。他にも瑞穂陸上競技場（本陸・北）・半田市陸上競技場があり、支部にとって恵まれた環境の中、競技者一人一人の更なる記録更新に期待をしています。

運営面では、公認審判員の高齢化・新旧の交代期を迎えています。小中の指導者の審判出席が少なく、公認大会運営に支障をきたすこともあります。一部の審判員に過重な負担をかけないよう、公認資格のある方の審判協力を切にお願いします。間もなく平成20年度・オリンピックイヤーです。エネルギーな若い審判員の活躍を期待します。

現在、支部要覧を販売しています。今年度、大会申込方法が一部変わりますので、必ず購入してください。

☆クラブ紹介（小さな一歩、小学生陸上クラブ誕生）

大リーグのイチロー選手の町として有名な豊山町に、「とよやまJRC」が誕生した。県市町村対抗駅伝を契機に、名古屋支部大矢氏（昭和橋小教諭）の助言を受け、町の強力な支援のもと活動しています。現在の団員は10名程度ですが、各地の市民マラソン大会で好成績を取っています。やがて大きな一歩を残してくれるでしょう。コーチには、庄内RTのK氏を迎え、楽しく練習しています。このようなクラブが多く誕生することを願っています。

（坂井田 醇三）

尾張支部

平成19年度のビッグニュースは「県営一宮総合運動場陸上競技場の全面改修決定」であろう。現競技場は昭和45年に竣工し今日に至っている。県営運動場として岡崎と一宮に開場し、以来40年近くにわたり幾多のアスリートを世に送り出してきた。しかしその後バブル景気、スポーツ文化の普及・発展に伴い、各地で全天候型トラックを備えた競技場が建設され、いつの間にか時代遅れの古い施設と化してしまった。特に、高校においては他地区に対してハンディを背負わされ、会場を知多に移して競技会を開催せざるを得ず、およそ20年に及ぶ難澁を強いられてしまった。

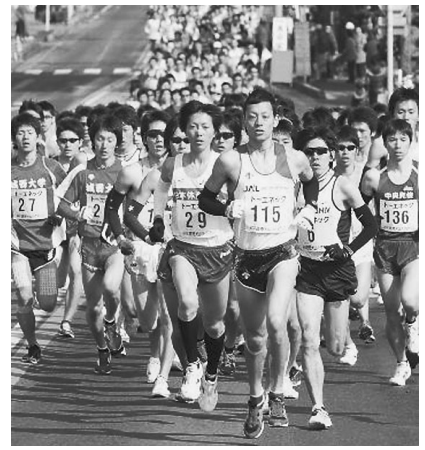
その間、関係者、公共機関、保護者等に有形無形の負担を強いてしまったことは申し訳ない限りである。特に知多地区の関係機関、学校関係者、陸上を担当された先生方にはお詫びと謝意を表したい。来る平成21年度のシーズン幕開けが待ち遠しい。

この工事は平成20年7月中旬から平成21年3月の半年間の予定になっている。期間中、平成20年度後半は知多市運動公園陸上競技場をお借りして、支部主催の競技会を開催することをご理解いただいている。

また、本年度役員改選の年にあたり、永年にわたり支部の事業の発展充実にご活躍、奔走された高田輝男氏が支部長を退かれた。競技場の改修問題に積極的かつ精力的に取り組まれ、今は故人となられた元支部長の高木憲夫氏と東奔西走されたその情熱とご活躍の姿は我々後に続く者に強烈なインパクトとなっている。

平成19・20年度は小椋征弘支部長のリーダーシップの下、各専門委員会に若手を起用し、新時代に向けての組織作りを整備していく時期だと言える。加えて新競技場の機能向上に関連した人材の育成、新システムの立ち上げ・運用に関連した研修プログラムの作成・実践等課題は山積している。陸上に携わる関係者の知恵と工夫を結集していきたい。

（原川 豪）



スタート直後の先頭集団
(2/24 読売犬山ハーフマラソン)
(写真提供 読売新聞社)

西三河支部

支部内の選手は、今年度も年間を通じてあらゆる大会において活躍してくれた。

全国大会参加状況は、中学・高校とも参加人数・参加校においては、ますますであった。ただし、入賞数は昨年度と比較して減少したことは反省点である。反面、今年度入賞した選手が多く残っているので、来年度は上位入賞の可能性もあり大いに期待している。

小学生においては、全国への出場が叶わなかったが、東海大会において女子4×100mRで安城JACが、久しぶりに大会記録を大幅に更新したことは明るい話題であった。

安城・岡崎・碧南・豊田・三好・西尾などの市町村において、嬉しいことに小学生への指導が急速に拡大している。トレーニング内容も基本を重視しながら遊びの要素を取り入れるなど、練習にも工夫がなされており、クラブチームの指導として理想的な方向に近づきつつある。ただし、地域によって中学校の指導者層に偏りがあり、中学への移行が必ずしもうまくなされていないのは残念である。

本年度の陸上教室も、12/15、12/22、2/2の3回にわたって実施され、中学・高校生を対象に、常に600名以上の参加があり、コーチ団も常時40名前後の参加であった。その他トレーナー・アシスタントコーチの協力もあり、来年度更なる飛躍が期待できる教室であった。

各記録会の選手参加状況は、年々急激に増加し、来年度は種目の精選等を含め、何らかの参加制限を考えなくてはならないほどの状況である。

審判員の年間大会出席状況は大変順調であり、大会によっては逆に断然なくてはいけないほどの、嬉しい悲鳴の大会も多くあった。来年度は全国レディース陸上が愛知で開催されるので、女性の審判員のご協力をお願いしたい。

（柴田 和秀）

東三河支部

いち早く豊橋市内の小学生を集めて始まった小学生陸上クラブも30余年、社会の変革の中、ここ10年地域型スポーツクラブの発足と共に、東三河では、田原渥美、蒲郡、豊川、新城と次々にクラブが育って来ました。陸上競技を通して健康と友情を育て、泣き笑いのクラブからは、全国一に輝く選手が育っていった。小学生に刺激され、中学生も熱を帯び、全国大会に参加する選手も多数現われた。高校では、指導者のチームワークがよく、優秀選手を育て、近年になく多数の選手を東海・全国大会に送った。小中高校生の全国大会出場を祝して、陸協から出す激励費が予算オーバーし、うれしい悲鳴です。

駅伝ブームの中、第60回渥美半島駅伝(12/16)、全三河駅伝(1/13)に合わせて120余チームの参加により、チーム力・競技力向上につながった。また、第1回豊橋市内小学校対抗駅伝が関係者の努力により開催され、大成功の内に終了することが出来た。この大会に参加した多くの選手が、陸上人として成長することを願うものである。

県小学生陸上で、新城クラブの加藤遙、鈴木千陽の優勝は、地域の父母の喜びはもとより、指導者の苦労が報われ「喜びの涙」を見た。このことは陸上競技指導をするうえで一番大切なことではないかと思った。

中学生のトップニュースは、100m日本一に輝いた鈴木

祐太(豊橋・本郷中)に尽きる。また、県中学駅伝では、石巻中学の7連勝を阻んだ豊川東部中学の力を高く評価したい。都道府県対抗駅伝(男子)の2区に出場した近並郷(泉中)の今後の活躍が楽しみである。

高校ではハードルと中長距離選手がインターハイを目前し、地区予選から混戦が予想される。特に中長距離では、柴田有里(成章)、鈴木亜由子(時習館)、奥田和佳奈(豊川工)、G.ワイリム、二宮悠希乃、加藤麻美、伊澤奈々花(豊川)、男子では高瀬昌俊(渥美農)、山本修平(時習館)、田中秀幸(豊川)、早川智治、水野眞治、正木翔(豊川工)、その他有力新人を加え、熾烈な戦いが展開されるだろう。この過酷なレースが選手を強くして行く最上の道といえる。

全国高校駅伝に参加した豊川工業の第5位入賞、初出場ながら第8位に入賞した豊川は特筆すべきことである。

低迷を続けていた大学も、久し振りに豊橋技科大の林育生が、東海学生3000mSCで優勝し、全日本大学駅伝選抜チームの一員として健闘した。一般の有木健人(ハート&ハート)が秋田国体3位入賞(成年男子棒高跳)は東三河として大いに喜ばしいことである。

施設面では、豊川高校に外周に起伏を取り入れた500mのジョギングコースを併設した全国屈指の400m全天候型トラックが完成した。(H20.1.11)。

2008年新春を迎えた東三河では、今日も熱気を帯びた練習風景がグラウンドに展開している。(牧田 功)

ホープさん③

鈴木祐太くん 本郷中学校1年



トップでゴールを目指す鈴木くん(中央)
(10/26ジュニアオリンピックにて)

東三河の中学陸上界に新星が現れた。昨年10月26日に行われた2007ジュニアオリンピック(横浜市)の中学1年男子100mで、11.20の驚くべきタイムで優勝した鈴木祐太くんだ。

決勝のレースは会心のレースだった。スタートの号砲と同時に鋭い第1歩を踏み出すとぐんぐん加速し、得意の中間走で波に乗ると一気にゴールを駆け抜けた。11.20のゴールタイムは、大会記録を更新しただけでなく、今期の中学校1年生の最高、さらには中学校1年生歴代2位のおまけつきだった。決勝の風速は+0.4m。中学1年生の歴代トップは9年前に島本一中(大阪府島本町)の山本慎吾選手がマークした11.16だが、この時の風速は公認記録ギリギリの+2.0m、したがって、彼のタイムは歴代最高タイムといっても過言ではない。

鈴木くんは小学校時代も俊足だったが、陸上競技ではなくサッカーに打ち込んでおり、中学入学後に陸上部に入学。最初の大会である東三河通信陸上大会で11.91をマークした。その後、県中学総体、東海中学総体と順調に走力を伸ばしてきた。走力と共に体も成長し、現在も背が伸び続けている。県総体では惜しくも11.36というタイムで全国総体出場はならなかった。(全国出場条件は11.30以内)このときの悔しさはジュニアオリンピック決勝まで忘れたことはないと思う。鈴木くんの性格は、普段は非常に温和で、たくさんの友人が周りを囲んでいる。しかし、陸上に取り組む時は真剣な表情に変わり、練習に真剣に取り組む。常に高い目標を持ち、今回のジュニアオリンピック優勝後も天狗にならず、すでに来年の目標を立てて練習に取り組んでいる。この、アスリートにうってつけの性格が、引き続き来年度の活躍を予感させる。来年度の目標は、10秒台&全日中優勝と公言している。冬季の厳しいトレーニングに取り組む彼の表情を見ていると、その目標も本当に達成してくれそうな予感には十分にある。とにかく怪我をしないよう、来年度さらなる活躍を期待したい。

最後に父副元さんの言葉を紹介する。

『祐太が初めて陸上の大会に出場したのは、小学校6年生の時でした。それまでは小学校3年生からサッカーが好きでクラブチームでプレーしていました。そんな祐太が陸上大会に出場したのは、6年生のクラス担任から、「小学校最後だから陸上大会に出場してみたら?」と言われたからでした。学校の運動会ではいつも1位だったので、豊橋市で何位くらいなのか確かめたくらい出場してみたそうです。100mで12.65の大会記録で優勝し、4×100mRではアンカーを務め、5、6位くらいでバトンを受け取ると全員を抜き去り1位でゴールしました。今、思えばサッカーが祐太の足を速くしたのだと思います』(原文のまま)

本原稿を作成するにあたり、父副元さんの寄稿文と東愛知新聞(19.10.30)を参考にしました。(太田 善和)



優勝をかみしめ表彰台に立つ鈴木くん(中央)
(10/26ジュニアオリンピックにて)

専門委員会報告

総務委員会

登録について

公認の陸上競技会等に審判員・競技者として参加するには、愛知陸上競技協会に登録し日本陸上競技連盟の登録会員になることが必要です。愛知陸協に登録された審判員・競技者は、愛知陸協が日本陸連に会員として申請して初めてその資格を得ます。

- 1 一般登録は個人登録と団体登録(5人以上)があります。
- 2 大学生は地区学連を通じて愛知陸協に登録されます。愛知陸協に未登録の場合は、支部を含め愛知陸協主催の競技会へは参加できません。また、日本選手権はじめ他県で開催される競技会への参加もできません。
- 3 中学生・高校生は学校単位で登録することが原則ですが、個人登録も受け付けています。

※中学の登録料が平成20年度より以下のように変更になりました。

中学の登録料

(1) 学校分担金：1校6,000円

(2) 登録料：1名500円(含ナンバーカード代)

※個人登録は今まで通り、1,200円です。(含ナンバーカード代)

- 4 登録の締め切り日は、一般4月15日、
高校5月20日、
中学7月15日です。

上記以外も随時追加の受付をしていますが、陸連主催大会の資格審査に関係する登録は、下記の締め切り日を必ず守ってください

- (1) 日本選手権 5月7日
- (2) 国体～12月の大会 7月20日
- (3) 高校駅伝、都道府県男女駅伝など 10月31日

- 5 登録申請先及び連絡先

一般団体登録及び個人登録

名古屋	水野 隆夫	名東高等学校
尾張	原川 豪	美和高等学校
西三河	山村 晃泰	刈谷高等学校
東三河	兵藤 重二	章南中学校

高校生登録

名古屋北	新美 準人	菊華高等学校
名古屋南	児玉 征久	瑞陵高等学校
尾張	浜子 記行	津島北高等学校
知多	成田 稔	東海南高等学校
西三河	清水 文昭	碧南工業高等学校
東三河	加子 勇	豊橋商業高等学校

大学生登録

全 県	愛知陸上競技協会
-----	----------

中学生登録

名古屋	森 剛人	長久手中学校
尾張	長瀬 基延	古知野中学校
西三河	細井 太郎	葵中学校
東三河	小野田明恵	青陵中学校

(稲垣 裕)

競技・情報処理委員会

2008年は、広島で行われた都道府県対抗男子駅伝第2位の活躍でスタートしました。今年も選手強化を目標において、選手が記録に挑戦できる競技会運営を目指していきます。

昨年12月に瑞穂陸上競技場の利用調整会議が開かれ、2008年度について決定しました。今シーズンはJリーグとの競合が多く、7月21日の中学通信愛知県大会を始め、いくつかの競技会終了後にサッカーのゲームが開催されず。競技終了後、速やかな退場にご協力ください。

大会申込みについては、昨年度から郵便為替による参加料等の納入、受領書の添付用紙への貼付と同封により、現金の処理が無くなり、間違いが無くなりました。今年はさらに改善します。

11月3日に全国レディース陸上競技大会を開催します。女性委員会を中心に、各委員会が連携して成功させていきます。愛知県内はもちろんのこと、東海地区、全国にも参加を呼びかけ、女性競技者が多数参加することを期待しています。参加標準記録の設定も出場しやすいものになっています。また、この大会を目標に、多くの女性審判員が本年度の大会に出席し競技運営力のアップをお願いします。

今年はリレーの競技規則が変更になっています。メンバーの交替、バトンの受け渡し等、審判伝達講習会並びに陸上競技マガジンの陸連時報等で確認してください。

(外山 幸男)

審判委員会

平成19年度の愛知の陸上競技も各地区の審判伝達講習会を最後に無事終わりました。各競技会の審判業務にご協力いただき感謝しています。

平成20年度は全国大会として、レディース陸上が11月に控えています。3月中に出席調査を終え、4月に編成しその後の競技会で実習を行い、本番に備えていきます。特に、女性審判の方に積極的に出席していただき、大会を大いに盛り上げていきたいと思っております。

平成20年度は、新たに40名の方が公認審判員の仲間入りをします。ご指導をよろしく申し上げます。

平成21年度には、マスターズの全国大会があります。普段の競技会から、全国大会を意識した審判業務を心がけるようお願いします。

審判資格取得講習会を名古屋市スポーツ振興会館(予定)で、4月27日(日)に第1回、10月13日(月・祝)に第2回を予定しています。1人でも多くの教え子、同僚などに勧めていただき、若い力を育てていきたいと思っております。

最後に、毎回お願いをしていますが、審判調査はがきを必ず出すように重ねてお願いします。

(榎原 茂)

選手強化委員会

愛知陸上競技協会専門委員会規定にある選手強化委員会規定を要約すると

- 1 選手強化事業に関する研究、企画、技術事務とコーチとしての自己研鑽
- 2 普及による初心者への指導、育成
- 3 愛知代表選手団の編成からなります。

名岐駅伝いまむかし④

第4回大会(昭和9年)——「一般」(9)・「学生」(9)参加——

倶楽部チームが初登場・優勝する

定期的に行われる駅伝競走としては、東京箱根間往復駅伝(以下、「箱根駅伝」という)につぐ歴史をもつ本大会も4回目を迎えて、倶楽部チームが参加するなど特色のある大会になってきた。例えば、育英OBで箱根駅伝に出場した現日大選手の松永等で組織された育英商業倶楽部、明治神宮競技の1万米選手権者の岩田等で組織された岐阜スター倶楽部である。そして大会に備える各チームの熱意も強く、学生の部で昨年5位に甘んじた岐阜師範は雪辱を期して2回の試走を、また昨年優勝した三重高等農林も専門学校が中学校に敗れてはと選手が多数の応援団と共に前日から鶴舞旅館に宿泊して連覇を目指すなど、大会に備える各チームの意気込みも熱を帯びてきた。さらに、大会に協賛した商店から選手及び付添人に7個入りチューイングガム1箱の寄贈が、また1着の所要時間を当てる懸賞広告が掲載され当選者に「クローム側腕時計」が5名までに贈呈されている。

レースは、1位から5位までを一般が占めたが、全体の3位から10位までが7分以内にゴールするなど各区間に亘って熱戦が繰り広げられ沿道の駅伝ファンを熱狂させた。

一般の部では、育英商業倶楽部(渡邊、篠田、金、松永)が2区(一宮・岐阜間)で3位に落ちたものの1・3区間で区間最高記録に加えて4区の松永が貫禄を示し、2位に6分余の差をつけ4時間42分06秒の大会新記録で優勝。

学生の部では、1区で育英商業、2区で岐阜師範、3区で岐阜農林がトップに立つなど目まぐるしい首位争いが展開されたが、4区で逆転した三重高等農林(小川、西川、高津、刈谷)が4時間58分29秒で二連覇を果たした。

なお、参加チームのうち、本巢中C(2区)と育英OB(3区)が中途棄権し、16チームが完走した。2位以下の成績は次のようである。

〈一般〉②岐阜スター倶楽部 4.48.20 ③新川青年 4.55.44 ④岐阜北恵那倶楽部 ⑤名古屋東新青年 ⑥昭和毛糸彌富工場 ⑦東京モスリン名古屋工場 ⑧昭和毛糸一宮工場

〈学生〉②岐阜農林 5.00.20 ③育英商業 5.00.44 ④岐阜師範 ⑤名古屋商業A ⑥本巢中A ⑦愛知一中A ⑧愛知一中B

(注)この年3/10に「愛知陸上競技協会」(会長 青井節朗)が発足し、3/17に協会結成記念競技会が、また5/6に第1回愛知陸上競技選手権大会がいずれも鶴舞公園で開催された。

第5回大会(昭和10年)——「一般」(10)・「学生」(11)参加——

初参加8チームが加わって厳寒の中熾烈な争奪戦を展開

今大会は、創立4ヶ月ながら最近の三重県内の駅伝で無敵を誇っている「津巨星倶楽部」等、初参加(*印)8チームが加わって厳しい伊吹おろしを衝いて熱戦が展開された。

なお、審判長でもある日比野マラソン王が70歳ながら2/1から名古屋商業の寒稽古に参加し、優勝を目指して同校と熱田神宮往復等4・5哩を走破・指導している。

一般の部では、ダークホースの岩塚青年(丹下、佐守、加藤、近藤)が、下津を過ぎてからトップに立ち、4区で箱根駅伝で優勝した日大の長距離選手の主将でもあり前年度優勝の育英商業倶楽部松永の追撃を振り切ってゴール。時間は4時間49分06秒。

学生の部では、1区で首位に立った育英商業(工藤、丹羽、崔、崔)がそのままトップをキープし4時間54分26秒、全体でも4位という好順位で優勝。

2位以下の成績は次のようである。

〈一般〉②育英商業倶楽部 4.49.35 ③*三重・津巨星倶楽部 4.52.50 ④新川青年団 ⑤彌富昭和毛織 ⑥一宮昭和毛織 ⑦岐阜・今尾青年 ⑧マラソンOB倶楽部 ⑨名古屋日本毛織 ⑩*大同電気製鋼

〈学生〉②三重高等農林 4.58.26 ③本巢中学 5.16.36 ④名古屋商業 ⑤*名古屋二商A ⑥*愛知工業 ⑦*享榮商業 ⑧*名古屋二商B ⑨名古屋商業B ⑩*名古屋電気B *名古屋電気Aは中途棄権

本稿執筆にあたり、名古屋市立鶴舞中央図書館のマイクロフィルムに収録されている「新愛知新聞」の記事を引用・参考した。

(西垣 完彦)

1については、強化指定選手の選定、強化合宿、練習会の実施、公認コーチの資格取得派遣を実施してきました。

2については、陸上競技教室の開催です。各支部で実施されている陸上教室は、年々活況を呈しています。この陸上教室が普及に大きく貢献していることは、中高校生の陸協登録者数の増加に表れています。

3については、国体、都道府県駅伝、スーパーレディース駅伝に愛知代表として選手を派遣しました。

これらの中で強化委員会として今後検討・活用すべき事項は、公認コーチ取得者の活用です。県選手団コーチとしての役割は、言うまでもなく強化事業や普及対象の陸上教室の指導者として、中心的な役割を担うような組織作りが肝要です。それにより、専門性の高い指導が組織的に成しえるものと期待できます。

2007年度日本陸連アスレティック・アワードは、自国開催となった世界選手権で銅メダルを獲得した土佐礼子選手でした。愛知アスレティック・アワードとして最優秀選手を仮に選出するとしたら、世界選手権日本代表で準決勝に進出し、国体で優勝して愛知県チームに貢献した内藤真人選手(ミズノ)になると思います。(北村 肇)

記録委員会

記録は暦年(1月~12月)で整理します。各大会ごとにチェック確認し日本陸連への公認申請、愛知陸協記録集の整理をしています。その資料を基に日本陸連の記録集(日本・高校・中学の各部門100傑)・高校年鑑の資料の提供を優先し、再整理、再確認をし、それぞれの機関へ報告しています。次に愛知陸協の10傑表の作成に入ります。ただ道路競技は12月にも大会がありますので、その記録の確認をしていると最終的な完成はやはり1月末までかかります。念には念を入れチェックしていますが、それでも記録集が出来上がってもミス(記録漏れ)は無かったかと心配です。

2008年も元旦ロード・競歩大会(庄内緑地)から始まりました。愛知陸協では年間100を超える大会の記録の整理が始まります。

年間でのべ500~600人の競技者が、県外の大会に愛知陸協からの出場認知を受けて出場しています。しかし、結果の報告をしない競技者が多くいます。大会終了後、速やかに報告してください。

記録委員会では、中学生大会の記録整理の協力者を募っています。手伝っていただける方は記録委員会まで連絡をください。

(岡田 武彦)

女性委員会

1 会議

- (1) 第1回会議 5月13日(日)
 - ・活動計画について
 - ・委員会のメンバーについて
 - ・第26回レディース陸上競技大会について
(日程・要項・愛知開催の陸連申請について)
- (2) 第2回会議 6月27日(水)
 - ・第4回愛知レディース陸上プログラム編成
 - ・第26回レディース陸上競技大会について
(愛知開催正式決定・共催・後援等申請について)
- (3) 第3回会議 9月15日(土)
 - ・全国女性委員会会議について(報告)
 - ・女性審判員アンケートの集計結果(報告)
 - ・第26回レディース陸上競技大会について
(リーフレットの作成・実行委員会・瑞穂の用器具について)
- (4) 第4回会議 2月16日(土)
 - ・平成19年度の活動報告・反省について
 - ・第26回レディース陸上競技大会について
(準備の進行状況と今後の作業など)
 - ・2008名古屋国際女子マラソンについて
(審判編成など)

2 第4回愛知レディース陸上競技会

- (1) 申込受付・データ打込み 6月15日(金)
- (2) プログラム編成会議 6月27日(水)
- (3) 大会 7月7日(土) 瑞穂陸上競技場(県混成・県リレー大会同時開催) 天候晴れ 気温28度前後
参加人数345名 リレー14チーム
(昨年より中高生 約150名増)
大会新記録 11種目
中学 5種目(100m/1500/100mH/走高跳/砲丸投)
高校・大学・一般 5種目(100m/走高跳/走幅跳/砲丸投/円盤投)
マスターズ 1種目(100m)
- (4) 女性審判員アンケートの実施・報告
- (5) 瑞穂陸上競技場用器具の点検・補充希望アンケートの実施(各部署)・施設用器具委員会へ報告

3 平成19年度全国女性委員会の出席・報告

7月7日(土)・8日(日) 岸記念体育館会議室
出席者 脇田千鶴

4 選手強化

秋田国体・スーパーレディース駅伝・都道府県対抗女子駅伝への派遣
・秋田国体 10月5日(金)～9日(火) 秋田県
参加者 佐藤悦子(コーチ)
・スーパーレディース駅伝 11月11日(日) 福井県
・都道府県対抗女子駅伝 1月13日(日) 京都府
参加者 荒井理恵(マネージャー)

<反省と今後について>

本年度は、特に理事長や選手強化委員長の配慮をいただき、女性競技者担当のコーチとして国体へ派遣していただ

いた。競技のコーチングだけでなく、メンタル面や体調管理の面でもサポートができたと思う。選手強化委員長からは改めて女性スタッフの必要性を感じたとの意見をいただいた。今後は、全ブロックにわたって女性スタッフが協力し、競技者のサポートをしていきたい。また、都道府県女子駅伝については、いずれはすべて女性スタッフで行うべきとの指示を理事長からいただいた。今後、このことを実現するために選手強化委員会のご指導をいただきながら積極的に取り組んでいきたい。女性の場合は結婚や出産によりブランクがある。このことを考慮して後進の育成に努め、スタッフ不足にならないようにしていきたい。

5 第26回レディース陸上競技大会の準備

5月に陸連に対して愛知県開催の再申請を行った結果、6月に入り正式に決定した。その後、愛知レディース陸上競技大会を開催したり、女性委員会で協議をする中で、意識が高まってきている。10月には実行委員会が立ち上がり、女性も審判・競技・情報処理などの各委員会メンバーとして会議に出席している。2月には第2回実行委員会が開催された。いよいよ大会開催の年を迎え、今後は、各委員長の指導をいただきながら積極的に準備に取り組んでいきたい。

(脇田 千鶴)

年誌資料・広報委員会

皆さん方の絶大なるご支援とご協力により、一年が終わろうとしている。年間4回の広報誌の発行は、多くの方々の協力により成り立っています。この一年間、原稿をお寄せいただいた皆さま方に深く感謝申し上げます。委員会としては、読みやすい広報誌を目指し、取り組んできました。もちろん、これからもこの方針は変わりません。一情報誌としての役割を十分に果たしているとはいえませんが、情報発信をすることにより、読者の皆さまが、愛知陸上競技協会の活動の様子をより知っていただくことができれば、その役割を一つ果たしたことになります。

6号から始まったこの一年。内容はいかがだったでしょうか。「こんな記事を載せたら…」とか「もう少しこんな工夫すると読みやすいのに…」など、いろいろなご意見ご要望があることと思います。ぜひお寄せいただき、よりよい広報誌への取り組みを考えていきたいと思っています。

号数	発行月日 (ページ)	編集内容
「愛知陸協広報」 6号	6/28 (p12)	<ul style="list-style-type: none"> ・会長及び理事長のことば ・専門委員会報告及び今年度の活動方針 ・4支部の活動状況及び今年度の活動方針 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(マラソン〈名古屋、豊橋、犬山〉室内棒高、県高校総体、県マスターズ等) ・平成19・20年度愛知陸協役員 ・理事会等会議報告 ・愛知陸協18年度収支決算報告 ・慶弔報告(体育功労者:兵道政明、澤辺泉二、森谷晴彦、石川重弥 特別優秀選手:室伏広治 優秀選手:室伏広治、村上智史、勝俣章博、内藤真人、加藤聡、鈴木亜由子、室伏由佳、中田有紀、岡部寛之、久保博規、深谷美咲) ※計報略

		<ul style="list-style-type: none"> ・キッズアスリート・プロジェクト報告(2/26実施) ・その他(名岐駅伝いまむかし② クラブ紹介① 名城オールランナーズ)
「愛知陸協広報」 7号	9/28 (p16)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のこぼ(上半期を振り返って) ・専門委員会報告 ・4支部の活動状況 ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(東海・全国高校総体他) ・理事会等会議報告 ・世界陸上観戦記(高校生12名) ・慶弔報告(特別表彰:室伏由佳 協会会長表彰:数馬公、佐野昭二、岩瀬一、安藤好郎、小嶋末広、柴田要吉)※訃報略 ・連載「ホープさん」② 三輪将之(中京大中京高) ・その他(クラブ紹介② 館俱樂部)
「愛知陸協広報」 8号	12/30 (p12)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のこぼ ・専門委員会報告 ・4支部の活動状況(わが支部自慢) ・関係団体の活動状況 ・競技会報告(国体、全国スポレク、愛知駅伝、名古屋ハーフ等) ・競技会参戦記(秋田わか杉国体) ・慶弔報告(特別賞:室伏広治、室伏重信 秩父宮章:稲垣裕平 沼尻三章:藤原照明 河野謙三章:土井香代 河野一郎章:鈴木亜由子 春日弘章:勝俣章博)※訃報略 ・その他(名岐駅伝いまむかし③ クラブ紹介③ 豊橋陸上クラブ)
「愛知陸協広報」 9号	3/30 (p12)	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のこぼ ・専門委員会報告 ・4支部の活動報告 ・関係団体の活動報告 ・競技会報告(東海・全国高校駅伝、犬山ハーフ、女子マラソン他) ・理事会等会議報告 ・慶弔報告(特別表彰:中田有紀、県体協表彰 体育功労者:水野隆夫、外山修、田嶋利夫、近藤富雄 特別優秀選手:室伏由佳、中田有紀、内藤真人 優秀選手:室伏広治、内藤真人、粟津良介、三輪将之、室伏由佳、中田有紀、岩水嘉孝、粟津良介、鈴木祐太、松原可依、水口小夜)※訃報略 ・連載「ホープさん」③ 鈴木祐太(豊橋・本郷中) ・その他(名岐駅伝いまむかし④、クラブ紹介④ AC一宮)

(外山 修)

20種目に熱戦を展開し、大会記録を4種目更新した。優勝を13団体で分け合った。

7月 “日清食品カップ” 全国小学生陸上競技交流大会
14種目に出場し、優勝1種目を含む8種目に入賞した。愛知県友の会記録を1種目更新した。

9月 東海小学生リレー競走大会
男女混合・男子・女子の4×100mRに3チームずつ9チームが出場し、9チーム全部が決勝に進出した。2チームが優勝し、愛知県友の会記録を1種目更新した。

11月 愛知県小学生陸上競技選手権大会
32種目に熱戦を展開し、愛知県友の会記録を4種目・大会記録を5種目更新した。優勝を20団体で分け合った。



ヨーイ・ドン! 素晴らしいスタートをする小学生たち
(11/3 瑞穂陸上競技場にて)

12月 愛知県小学生長距離走記録会
団体の部で、岡崎JACが初優勝し、“日清食品カップ”全国小学生クロスカントリーリレー研修大会への出場を決めた。

2月 小学生クラブチーム指導者実技講習会

① [走幅跳の踏切動作について]
実技と理論の両面で研修した。
指導 古川裕二講師 参加者 49人

②検討 [走幅跳 友の会ルールについて]
決定…平成20年度以降は陸連規則の通りに競技運営される。

競技会の成績

12月 愛知県小学生長距離走記録会

(1500m走 6人=9000mの合計タイム)

優勝	岡崎JAC A	31.02.14
2位	豊橋陸上クラブ A	31.33.59
3位	田原陸上クラブ A	31.38.30
4位	へきなん陸上クラブ A	32.41.33
5位	JACとよあけ A	32.51.53
6位	JACあつみ	32.02.27
7位	田原陸上クラブ B	33.09.99
8位	TFC半田 A	33.55.64

(大矢 新吾・村上 叡治)

中体連

今年度の中体連の活動(取り組み)は底辺拡大を念頭に置き、県下全体のレベルアップを目標にしてきました。一人でも多くの選手が陸上競技と真剣に向かい合い、楽しさを味わいながら向上できたらと各支部が独自のメニューで取り組んできた。

県通信・県総体では短距離の好記録ラッシュに始まり、全中へ参加人数・種目の増加した。

東海中学総体(愛知県大会)は地元開催ということもあり、ほとんどの種目で上位入賞を果たすなどの活躍をみせた。

関係団体報告

小学生友の会

3月 “日清食品カップ” 全国小学生クロスカントリーリレー研修大会
田原陸上クラブが3年連続で出場し、17年大会9位
18年大会8位に引き続き19年大会も8位に入賞した。

6月 愛知県小学生リレー競走大会

夏季の全日本中学校陸上競技選手権大会宮城大会では、女子の1年100m 森佑紀那選手(長良中)、女子リレーが活躍をみせた。

秋季のジュニアオリンピックでは、1年100m 鈴木祐太選手(本郷中)の大会新記録に始まり、男女リレー揃っての活躍を見ることができた。このように競技場を使用する競技会が幕を閉じた。

県駅伝では女子は沓掛中学校が3年連続、男子では豊川東部中学校が接戦を押さえ、12月15日に山口県で行われた全国中学校駅伝大会に出場した。

女子も男子も2走3走までは2位や3位につけ、あやわと思わせる所もあったが、最終的には女子は11位、男子は14位であった。入賞は逃したものの相変わらず安定した力を見せている。

以上のように、平成19年度の中体連関係の大会結果として、トラック競技では、新勢力の1年生の活躍が目立ち、来年度以降の活躍が楽しみである。また、下級生に刺激された上級生の巻き返しにも期待したい。

駅伝を含むロードレース・クロスカントリーにおいてもずば抜けた力は育ってはいないが、安定した力を発揮できている。上級生の活躍に下級生の追い上げなど来年度以降の活躍も期待される。

このように『陸上王国愛知』復活の兆しはあり、それに向けての中学生の準備が整い始めたように思われる。来年度以降、平成25年に愛知で開催予定の全日本中学校陸上競技選手権大会に向けて着実に階段を上るように、選手の養成、陸上人口拡大など着実な準備をしていこうと考えている。(秋田 明憲)

クラブ紹介④ AC一宮

「地域に根ざした活動を」



練習風景 (スタートダッシュ)

AC一宮のACとは、アスリート・クラブの略称で、小・中学生や、陸上競技を志す方なら誰でも会員になることができます。平成20年1月1日をもって、これまでのJAC一宮からAC一宮という名称に変更いたしました。AC一宮の前身のJAC一宮は、小中学生が陸上競技を通して、健全な心身を育てていくことを目指し、平成5年5月5日に発足いたしました。以降、多くのアスリートを送りだしてきましたが、当クラブの出身者が成人し、指導者やリーダーとして戻ってくるようになり、陸上競技会の審判活動などでも活躍できるようになってきました。そこで本年より、陸上競技を目指す一般会員の登録も行い、地域に根ざしたクラブ活動を行なっていきたいと願い、名称の一部のジュニアのJを取り去り、新しい活動を進めることになりました。

AC一宮が大切にしている活動のひとつは、多数開催されている陸上競技の大会や記録会に参加することです。そのための基礎的な練習を行います。競技会では、レースに勝つことよりも、一人一人の記録を知り、1秒でも、1cmでも記録を向上させていくことをねらいとしています。最近では、尾張支部内の多くの中学校で陸上競技部が廃部になり、大会へ参加できない状況になっています。陸上競技を志す小・中学生に門戸を開くためにも、これからも大切にしていきたい活動です。同時に競技会の審判活動にも積極的に参加していくことも考えています。クラブの仲間同士で助け合いながら、大会運営に関わっていきたくて考えています。

練習は、毎週土・日曜日の午前中を利用し、県営一宮総合運動場の陸上競技場で行っています。大切にしている基礎練習は、「動き作り」です。足の動きばかりでなく、上半身とのバランスをとる動き、関節の動きを滑らかにする動きを中心に行なっています。これは走・跳・投のパフォーマンスの向上ばかりでなく、けがの防止につながるものと考え、これからも大切にしていきます。小学生は、走・跳・投の基礎となる種目を網羅して行なっています。おにごっこや長縄とびなど、楽しい遊びを取り入れた練習を多く行なっています。練習の最後にはドッジボールなどもして楽しんでいます。中学生以上は目指す種目を中心に、練習を重ねています。同じ陸上競技場で練習している高校生や実業団の選手にまじって練習することも多くあります。



動き作り



長縄とび



ドッジボール



ボルテクス投げ

練習以外に、清掃などのボランティア活動にも参加をしています。県営一宮総合運動場は桜の名所としても有名で、毎年春と秋に行なわれる「桜守ワーク」の清掃活動に参加しています。

また、所属する会員は中学を卒業すると高校の陸上競技部に所属するため、クラブから離れる形になります。しかし、希望者はクラブのリーダー登録をし、愛知県スポーツ少年団本部のリーダー会に参加をさせています。その中からスポーツ少年団の日独同時交流事業で、ドイツに派遣される会員も出てきています。

名称も新しくなり、会員の意気込みも増えています。これからも陸上競技を通して地域に根ざした活動を続けていきたいと考えています。(西村 嘉二)

高体連

20年度の競技会日程がほぼまとまりましたが、そのうち高体連関係だけをピックアップしてお知らせします。(紙面の都合で県大会以上のものだけ掲載させていただきます。)

○高校総体関係

- ・県総体 5月23日(金)・24日(土)・25日(日) 瑞穂
- ・東海総体出場者練習会 6月14日(土) 瑞穂(北陸)
- ・東海総体 6月20日(金)・21日(土)・22日(日) 岐阜(長良川)
- ・全国総体出場者練習会 7月13日(日) 瑞穂(本陸)
- ・全国総体 7月29日(火)～8月2日(土) 埼玉(熊谷市)

○新人戦関係

- ・県新人 9月27日(土)・28日(日) 瑞穂
- ・東海新人 10月25日(土)・26日(日) 三重(伊勢市)

○駅伝関係

- ・県駅伝 11月2日(日) 知多市
- ・東海駅伝 11月23日(日) 岐阜市
- ・全国駅伝 12月21日(日) 京都市

※20年度より、高校男子円盤投の重量が、1.75kgに変わります。

※今年の全国高校総体(埼玉県熊谷市)は、昨年40.9度という日本一暑い気温を記録した都市で行なわれます。選手はもちろん、応援の方たちも暑さ対策を万全にしてください。

※毎年の登録で、生徒氏名の漢字・読みがな及び生年月日の間違いが、多く指摘されます。必ずよくご確認のうえ、登録してください。

※20年度は、ルール改正がかなり大幅に行なわれます。改正のポイントは日本陸連のホームページで検索できますので、よく確認してください。また、試合当日のプログラムの中に書いてある競技注意事項をよく読んでレースに臨んでください。

(大島 修)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

愛知マスターズ連盟は、19年度第5回理事会を11月24日(土)にあいち健康プラザで、第6回理事会を2月17日(日)に岡崎市シビックセンターで開催しました。

第5回理事会では、日本マスターズ連合から要請のあった三世代交流陸上研修会の開催の支援の可否等について、第6回理事会では、平成19年度総会等について協議されました。また、いずれの理事会においても、2009年に開催する全日本マスターズ選手権の協賛企業について、具体的な協議がされました。

1月26日(土)、日本マスターズ連合主催の三世代交流陸上研修会が、あいち健康プラザ及びあいち健康の森を会場として開催されました。この研修会は11月中旬に日本マスターズ連合から19年度の事業として、今から会場と100人の三世代の参加者が確保できるかどうか突然の打診があり、理事会で協議の結果、引受けることにしました。

研修内容は、日本マスターズ連合が佐々木秀幸日本陸連名誉副会長と協議して調整しましたが、それが現実に行きかどうかが、参加者が集まるかどうか、また、集まり過ぎたらとの不安が交錯しました。しかし少年少女陸上クラブの指導者の皆さまのご協力のお蔭で136人の参加者が集ま

り、用具や弁当を追加発注するという盛況となりました。また、研修会の運営についても、比較的円滑に進行できました。ご協力いただきました皆さまには、この紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

競技関係では、11月24日(土)・25日(日)に和歌山市紀三井寺陸上競技場において、2007国際ゴールドマスターズ陸上競技選手権大会が、アジアマスターズ陸上競技連盟の主催で行われました。アメリカを始めインド、イラン、シンガポールなど10ヵ国からの参加者を含め、453人が参加しました。

この大会は今年初めて開催されたもので、世界中の60歳以上のマスターズ会員であれば誰でも参加できる大会で、愛知県からも20人が参加しました。

県内選手の主な成績は、男子では800mM70で平林栄治選手(小牧市)、300mHM75で中嶋育巨選手(豊橋市)、砲丸投M65とハンマー投M65で山田博嗣選手(豊田市)がそれぞれ優勝しています。また、400mM75で中嶋育巨選手(豊橋市)が2位、400mM65で河村典雄選手(知多市)が3位ではありましたが、それぞれ愛知県記録を更新しています。

女子では、81歳の長谷川政子選手(名古屋市)が走高跳W80、三段跳W80で優勝し、特に走高跳は日本記録を更新する立派な成績でした。また、加藤敦子選手(豊川市)も砲丸投W60、円盤投W60、ハンマー投W60の3種目優勝し、中でも円盤投は、愛知県記録を更新するすばらしい成績でした。

(佐野 昭二)

愛知陸協 OB 会

愛知陸協 OB 会は、新しく4名の会員を迎えて7月21日の総会を行いました。会員数も64名を数える組織になり、年々充実した取り組みをしています。

今年度の一泊研修は、9月に青木湖畔の中京大学青木湖セミナーハウスにて宿泊し、国宝松本城を見学。有意義な研修ができました。

2月には、名古屋支部の担当で、41名が参加し、新春懇親会を蟹江町の松岡豊泉閣にて開催しました。温泉に入り、日頃の疲れを落としてから懇親会を開始しました。この冬の寒さを吹き飛ばし、暖かいふれあいに感謝しながら、今年度のすべての事業を終えました。

(村瀬雄一郎)

競技会報告

平成19年度東海高校駅伝(男子)

2007年11月25日(日)
静岡・浜岡総合グラウンド発着

男子成績(本県分のみ)7区間 42.195km

第1位 豊川工 2.08.56

(三田裕介・水野真治・小嶋裕貴・早川智浩・正木翔・藤井延幸・鶴田雅哉)

第4位 豊川 2.12.10

第10位 愛工大名電 2.15.36

女子成績 (本県分のみ) 5 区間 21.0975km

第1位	豊川	1.10.18
(二宮悠希乃・加藤麻美・G.ワイリム・伊澤菜々花・小柳津早紀)		
第3位	中京大中京	1.11.57
第5位	豊川工	1.12.26
第9位	光ヶ丘女子	1.13.24

第15回全国中学駅伝

2007年12月15日(土)
山口県セミナーパーク
男子6区間18km 女子5区間12km

男子成績 (本県分のみ)

第14位	豊川東部	58.47
(山本健太・山本真紗也・小山裕太・鈴木崇也・権田一真・福田有佑)		

女子成績 (本県分のみ)

第11位	沓掛	42.01
(下村環加・鷺見咲也加・山田泉・梶野愛・小林史佳)		

第58回全国高校駅伝 (男子)

2007年12月23日(日・祝)
京都市西京極陸上競技場マラソンコース
7区間 42.195km

成績 (本県分のみ)

第5位	豊川工	2.05.51
(三田裕介・水野真治・早川智浩・長坂公靖・小嶋裕貴・正木翔・鷺田雅哉)		

第19回全国高校駅伝 (女子)

2007年12月23日(日・祝)
京都市西京極陸上競技場マラソンコース
5区間 21.0975km

成績 (本県分のみ)

第7位	豊川	1.08.57
(G.ワイリム・二宮悠希乃・伊澤菜々花・小柳津早紀・加藤麻美)		

区間賞 3区(3.0km) 伊澤菜々花選手 9.44

第39回元旦ロードレース・競歩大会

平成20年1月1日(火・祝)
庄内緑地公園周回コース

成績 (3位まで・愛知県登録者関係分)

一般男子10km

1	渡辺 幸司 (TPAC)	33.12
2	末次 悠人 (名大倶楽部)	33.16
3	川口 亮平 (東北大)	33.21

一般男子20km競歩

1	吉原 政人 (プロシード)	1.32.54
---	---------------	---------

高校男子10km

1	今枝 浩二 (至学館)	33.49
2	館林 洗介 (津島北)	34.07
3	浅井 健也 (熱田)	34.53

高校男子10km競歩

2	渡邊 雄己 (至学館)	47.07
3	永田 和寛 (半田)	48.08

一般高校女子10km

1	内田 詩織 (至学館)	41.40
2	藤井 綾乃 (至学館)	41.52

一般高校女子5km競歩

3	光田 理子 (津島北)	25.20
---	-------------	-------

第26回全国都道府県対抗女子駅伝

2008年1月13日(日)
京都市西京極陸上競技場発着
9区間 42.195km

成績 (本県分のみ)

第13位	愛知	2.21.00
(二宮悠希乃・足立依実子・下村環加・伊澤菜々花・加藤麻美・奥田和佳奈・山元美駒・鈴木萌未・大南博美)		

第13回全国都道府県対抗男子駅伝

2008年1月20日(日)
広島市平和記念公園前発着
7区間 48.0km

成績 (本県分のみ)

第2位	愛知	2.21.19
(田中秀幸・近並郷・佐藤秀和・早川智浩・三田裕介・松井将器・山本芳弘)		

西田修平・高橋公一記念国際室内棒高跳競技大会

平成20年3月1日(土) 中京大学豊田学舎体育館

男子

1	沢野 大地 (ニシ・スポーツ)	5.43
2	鈴木 崇文 (東海大)	5.33
3	張雁 盛 (中国)	5.33

女子

1	錦織 育子 (出雲市陸協)	4.22
2	アッサー (米国)	4.12
3	近藤 高代 (長谷川体育施設)	4.02

福岡国際クロスカントリー大会

平成20年3月1日(土) 福岡市海の中道海浜公園

成績 (女子関係分)

一般6km

2	G・ワイリム (豊川高)	19.18
---	--------------	-------

ジュニア 4km
2 伊澤菜々花 (豊川高) 13.30

ジュニア 6km
3 二宮悠希乃 (豊川高) 19.39

第62回名岐駅伝

2008年2月3日(日)

一般の部 (大垣城ホール前~中日新聞社)

1 トヨタ紡織 2.31.32
2 NTN 2.32.06
3 スズキ 2.32.18
4 トヨタ自動車 2.32.34
5 八千代工業 2.36.13
6 愛知製鋼 2.36.13

高校の部 (岐阜県庁前~中日新聞社)

1 豊川工 1.59.32
2 佐久長聖 (長野) 1.59.53
3 上野工 (三重) 2.02.20
4 遊学館 (石川) 2.03.07
5 美方 (福井) 2.03.09
6 中京 (岐阜) 2.04.16

第30回記念読売犬山ハーフマラソン

第30回という記念すべき読売犬山ハーフマラソン(愛知陸上競技協会、読売新聞社、犬山市)が2月24日(日)、犬山市と丹羽郡扶桑町をまたぐ日本陸連公認コースで開催された。前夜からの積雪や路面の凍結により、30分遅らせてのスタートとなったが、公認ハーフに男子388名、女子89名(含招待選手)が参加し、栄光のゴールを目指した。また同時開催の一般ハーフ、10kmロードレースも同コースで行われ、総勢5,800余名が健脚を競った。

主催の読売新聞社、犬山市をはじめ、愛知県警、陸上自衛隊春日井駐屯地、ボランティアの皆様、ご協賛の企業各社に深く感謝申し上げます。



栄光のゴール目指して力走する選手たち(写真提供 読売新聞社)

大会成績結果 (太字は愛知)

公認男子 1 星 創太 (駒澤大) 1.04.10
2 今村 俊 (プレス工業) 1.04.12
3 大西 智也 (東洋大) 1.04.13
4 柴田 尚輝 (JAL グランドサービス) 1.04.20
5 佐藤 彰浩 (愛知製鋼) 1.04.27

6 阿部 哲史 (トーエネック) 1.04.35

公認女子 1 尾崎 朱美 (セカンドウィンド AC) 1.12.32
2 才上裕紀奈 (積水化学) 1.13.04
3 早川 さよ (積水化学) 1.14.35
4 大谷木 霞 (パナソニック) 1.14.48
5 岩狭めぐみ (小島プレス) 1.16.44
6 新田 百恵 (ワコール) 1.17.08

第29回名古屋国際女子マラソン

春の日差しが暖かく降りそそぐ名古屋の地に女子マラソン界の精鋭が揃い、かつてない熱い興奮に包まれた。3月9日(日)瑞穂運動公園陸上競技場及び沿道に、高橋尚子選手をはじめ、北京五輪代表を目指す女子マラソンランナーを一目見ようと集まった観客の多さにはビックリした。沿道には65万人(大会事務局発表)が熱い視線を投げながら、選手の走りに声援を送っていた。誰が最終選考に残るか、けん制しながら17分後半のスローペースで進んだレースも、30キロ付近から6人に絞られた。32キロを過ぎたところで、中村友梨香選手が先頭集団から抜け出し、初マラソンでの優勝を飾った。多くの観客は、高橋選手の走りに期待していたが、9キロ付近で先頭集団から遅れ、27位に終わった。走り終え、観客の声援に応える高橋選手の笑顔が印象的であった。

また、今回の大会では500人近くの報道関係者が詰め掛けたが、大会本部の緊急な対応のお陰で、大きな問題もなく終えることができた。

主催の(財)日本陸上競技連盟と中日新聞社、レース運営にご協力いただいた愛知県警をはじめ、後援団体・企業など関係各位に厚くお礼申し上げます。

大会成績結果 (1~10位)

1 中村友梨香 岡山・天満屋 2.25.51
2 尾崎 好美 東京・第一生命 2.26.19
3 加納 由理 東京・セカンドウィンド AC 2.26.39
4 原 裕美子 京都・京セラ 2.27.14
5 堀江 知佳 千葉・アルゼアスリートクラブ 2.27.16
6 大島めぐみ 埼玉・しまむら 2.29.03
7 平田 裕美 東京・資生堂 2.29.23
8 西尾 麻耶 福岡・九電工 2.29.34
9 弘山 晴美 東京・資生堂 2.29.50
10 坂本 直子 岡山・天満屋 2.30.21
11 嶋原 清子 東京・セカンドウィンド AC 2.30.30
12 吉田 香織 東京・セカンドウィンド AC 2.30.58
13 町田 祐子 宮城・日本ケミコン 2.31.45
14 平良 茜 神奈川・パナソニック 2.33.12
15 林 明佑美 長崎・十八銀行 2.34.09
16 小川 清美 京都・京セラ 2.34.17
17 高橋富士子 神奈川・パナソニック 2.35.05
18 大南 敬美 愛知・トヨタ車体 2.35.08
19 若松 育美 三重・デンソー 2.35.42
20 真鍋 裕子 香川・四国電力 2.37.26

県勢の活躍 (50位以内)

18 大南 敬美 トヨタ車体 2.35.08

- 44 小倉 久美 城西国際大 2.53.18
- 50 風岡さやか 庄内 RT 2.55.39

初優勝でゴールする中村友梨香選手



(写真提供 中日新聞社)

理事会等会議報告

○理事会 12月14日(金) 愛知県教育会館

1 協議事項

- ①平成19年度各種栄賞候補者の推薦について
- ②平成20年度競技会等の日程(案)について
- ③全国都道府県対抗駅伝大会の選手等選考について
- ④審判員昇格候補者について
- ⑤2008名古屋国際女子マラソン大会について
- ⑥2008読売犬山ハーフマラソンについて
- ⑦2008名岐駅伝について
- ⑧西田・高橋記念国際室内棒高跳競技大会について
- ⑨冬季強化合宿について

2 報告事項

- ①愛知県体育協会表彰者の推薦について
- ②ジュニアオリンピック大会の結果報告
- ③スーパーレディース駅伝大会の結果報告
- ④名古屋ハーフマラソン大会の結果報告
- ⑤東海高校駅伝競走大会の結果報告
- ⑥陸上競技教室の状況報告
- ⑦全国普及担当者会議の報告
- ⑧全国強化委員長会議の報告
- ⑨各専門委員会からの報告
- ⑩その他

○常務理事会 1月8日(火) 愛知県教育会館

1 協議事項

- ①日本陸連栄章受賞候補者について
- ②平成20年度の競技会の日程について
- ③公認審判員の昇格候補者の推薦について
- ④平成19年度愛知陸上競技協会記録の承認について
- ⑤名古屋国際女子マラソン大会の委員・業務・日程について
- ⑥中日豊橋マラソン大会について
- ⑦その他

2 報告事項

- ①日本陸連評議員会の報告
- ②各専門委員会の報告 (稲垣 裕)

栄章

おめでとうございます
愛知陸上競技協会 特別表彰
中田有紀



國分理事長より特別表彰を受ける中田選手

平成19年1月28日、ドイツのカルバッハで行われたドイツ室内混成選手権大会の女子五種競技において、自己の持つ室内日本記録(4044点、2004年)を29点更新する4073点をマークし、室内日本新を樹立した。

愛知陸協は、読売犬山ハーフマラソン運営主任者会議の席上で中田有紀選手(株)日本保育サービス所属)を特別表彰した。中田選手は、「ドイツでは、混成競技が陸上競技の入り口になっている。混成競技が愛知から広がるようがんばっていきたい。」と語った。

[60mH 8.67、走高跳 1.69、砲丸投 11.58、走幅跳 5.88、800m 2.21.34]

体育表彰受賞者

平成19年度愛知県体育協会体育表彰式が平成20年3月19日(水)「ウイルあいち」で行われました。受賞された皆様には、心からお祝い申し上げます。

1 体育功労者

(スポーツ振興)

水野隆夫 外山 修 田嶋利夫 近藤富雄

2 特別優秀選手

(国体等で連続3回以上優勝)

室伏由佳 中田有紀 内藤真人

3 優秀選手

(国際大会で優秀な成績)

室伏広治

(国民体育大会優勝)

内藤真人 栗津良介 三輪将之

(日本選手権大会等優勝)

内藤真人 室伏広治 室伏由佳

中田有記 岩水嘉孝 栗津良介

鈴木祐太 松原可依 水口小夜

(稲垣 裕)

編集後記

◆数々のドラマを残して、19年度の競技会の幕を閉じた。未だに、名古屋国際女子マラソンの感動が心に残る。◆草木が芽吹き、別れと出会いの春を迎えた。終わりは新たなスタート。また、新しいドラマの誕生が楽しみだ。◆いよいよ、北京五輪の年。日本選手の活躍を期待したい。◆この一年、多くの皆様方の協力があった、この「愛知陸協広報」も号を重ねることができた。多謝。

編集委員

占部 輝之 大久保真理子 大西 敏功 外山 修
中尾 洋一 新美 準人 西垣 完彦 野口 一昭
山本 三郎